

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つける
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！



「ユアサ商事の森プロジェクト」実施

マレーシアの湿地帯で2022年度 第1回植樹プログラム実施 地域住民参加によるマングローブ林再生を通し環境保全活動

熱帯雨林の 再生と保護

ユアサ商事株式会社(東京都千代田区、社長：田村 博之氏)は、公益社団法人日本マレーシア協会(東京都千代田区、理事長：小川 孝一氏)と協働で、マレーシア国クダ州ムルボック湿地保護林において、マングローブ林再生を通じた環境保全活動「ユアサ商事の森プロジェクト」における、2022年度 第1回植樹プログラムを実施した。

ユアサ商事の 森プロジェクト

ユアサグループは、1970年代初頭より木材の輸入事業を通してマレーシア国との取引を本格的に開始。1995年には駐在員事務所を開設したほか、1997年には現地法人を設立し、現在は現地法人を通じ工作機械や建設機械などの生産財の販売事業とメンテナンス事業を展開し、同国の発展とともに業容を拡大してきた。

約50年にわたる取引関係があり、同社との関係が深い同国の熱帯雨林の再生・保護と、同社グループが目指すESG経営 & SDGsの実現(気候変動への対策“森林や生物多様性の維持”)に向け

具体的に行動するため、2020年に公益社団法人日本マレーシア協会と協働でマレーシア国クダ州ムルボック湿地保護林において、マングローブ林再生を通じた環境保全活動「ユアサ商事の森プロジェクト」を開始した。

植樹実施目的

今回の「ユアサ商事の森プロジェクト」植樹プログラムの実施は、同社との関係が深いマレーシアの熱帯雨林の再生・保護と、同社グループが目指すESG経営 & SDGsの実現を具体化したもので、気候変動への対策“森林や生物多様性の維持”に向け、マングローブの植樹活動を開始した。

「ユアサ商事の森プロジェクト」植樹活動は、当初2020年度より開始を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により2022年度より開始した。12月3日(土)、マレーシア国クダ州クアラ・ムダ管区スンガイ・プタニ地区(ムルボック湿地保護林内森林劣化地域 約200ha)において実施した植樹活動には、マレーシア理科大学教育学部生25名、教員・職10名、地域住民12名、クダ州森林局員3名の50人が参加。マレーシア理科大学教育学部准教授によるマングローブ林の特徴や人々の暮ら

しとの関係、保全、植林の重要性などの事前学習が行われたほか、オオバヒルギ、フタバナヒルギなど400本の苗木を植林した。

今後の予定

今後「ユアサ商事の森プロジェクト」植樹活動は、2023年3月までに合計1千本の育苗と植林を継続する予定であるほか、植栽木のメンテナンス作業、環境教育プログラムの実施など、活動地周辺の小学生がマングローブ林保全の必要性を学ぶためのプログラム実施を計画している。さらに活動地域の村人の生活向上のためのプログラムも予定している。

■ユアサ商事の森プロジェクト

(2020年発表時)

◆実施場所

マレーシア国クダ州クアラ・ムダ管区スンガイ・プタニ地区(ムルボック湿地保護林内森林劣化地域 約200ha)。

◆実施期間

2020年4月1日～2030年3月31日(10年間)。

◆実施内容

(1)育苗・植林活動

地域の人々と協働し、年間5千本の育



苗・植林活動を実施。

- (2)環境教育プログラムの実施
マレーシア理科大学専門家と協働し、地域の小中高校や学習補助施設における環境教育プログラムを実施。
 - (3)植樹イベントの実施
ユアサ商事グループ社員、地域の大学生、小中高生、村人などが参加する植樹イベントを実施。
 - (4)地域社会との会合実施
本活動の目的や成果を地域社会と共有するための会合を実施。
 - (5)生活向上プログラムの実施
地域村落の生活向上のため漁業設備の補修支援や、果樹など有用樹種の植林を実施。
- (※資料提供：ユアサ商事)



■ユアサ商事URL → <https://www.yuasa.co.jp/>